



「めいおんの会」との出会い

名古屋音楽大学学長 佐藤恵子

「めいおんの会」の皆様には、8年前に学長職就任以来、大変お世話になり、心から感謝しております。学生の為に何かできることをと学長に就任し、新生名古屋音楽大学を掲げて挑みましたが、2020年のコロナ禍の為に、学生の学ぶ権利を守ることが最優先となりました。きっと皆様も同様に、音楽の授業には苦勞されたことと察しております。

「めいおんの会」の活動は、皆様が集い、経験の少ない卒業生には細やかなアドバイスをし、お互いの情報交換をし、名古屋音楽大学ならではの素晴らしい独自の活動をして下さると、学長就任当時、とても誇らしく思いました。また実務経験者の特任教授の方々に恵まれ、私のクラスコンパに参加し、教職に就きたい学生の夢を叶えるサポートをして下さったことも懐かしく思い出します。そして学長任期中に本学卒業生の川合恒之特任教授をお迎えできたことは、とても嬉しく、誇らしく思っています。

少子化とともに、コロナ禍の中、音楽を学ぶ方も減り、働き方改革が進み、合唱・吹奏楽クラブの活動も変化する現在、入学生確保は益々難しくなります。音楽の素晴らしさ、楽しさを、皆様の日々の活動を通じて、若い世代に伝えて頂けたら、とても嬉しく、有り難いです。皆様に、卒業生として誇れる名古屋音楽大学になれるよう、清水新学長を筆頭に改革が進むと信じています。

学生、教職員一同の努力で、毎年教職に就く卒業生が続き、今年も何人か皆様の仲間入りをさせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

「めいおんの会」の皆様の益々のご活躍と発展を願い、引き続きのご支援をお願いし、感謝の気持ちを伝えご挨拶とさせていただきます。

学長就任にあたって

名古屋音楽大学新学長 清水皇樹

この度4月より、名古屋音楽大学学長職を拝命いたしました。

8年間に渡る佐藤恵子前学長の素晴らしい功績の前に、身が引き締まる思いであります。特に、ザルツブルグのモーツァルテウム音楽大学、エッセンのフォルクガング芸術大学との提携は、大きく実を結びました。エラスムスプラス(単位互換)という制度を活用し、半年、或いは1年間海外の伝統ある音楽大学でしっかり勉強出来、本学を休学しないで復帰できるという画期的なこの取り組みにより、学んで帰国した学生達は素晴らしい成果をあげています。(国際コンクールに上位入賞を果たしたり、また自力で卒業後、ドイツに本格的な留学をしたり。)それは大きな驚きであり、大変嬉しく思っております。そして、音楽を志す高校生達にもその留学制度が魅力的に映るようで、実際の受験、本学入学の一つの大きな理由になっているようです。今後も、これを力強く継続、発展していくと同時に、新しい試みも考えています。

それは、メディア系音楽、テクノロジーを伴った新しい音楽音響分野教育の開拓です。昨今、アニメーション音楽やゲーム音楽等を学びたいという高校生が急増しているようで、本学もその新しい分野での教育も取り組んでいかなければならないニーズを強く感じています。

今までの名古屋音楽大学の伝統を重んじながら、「新しい風」を起こすために現在、同僚の先生方とアイデアを出し合ったり、名古屋造形大学の先生方にもいろいろ話を伺ったりして、試行錯誤しているところです。この会報が届く頃には何か新しい「めいおん」の形をお伝え出来るかと思っております。

是非ともこれからの名古屋音楽大学を見守っていただき、引き続き温かい応援のほど、よろしくお願い致します。



「子ども一人一人に寄り添うこと」



名古屋市立南陽小学校教諭
相坂 晴美 (H17卒)

私は令和5年度、名古屋市教育センターが行っている「名古屋市教員長期社会体験研修」の研修生として、夏休みの3週間「公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団」で、研修をしました。研修では、事務局での事務や、演奏会の宣伝、運営等における業務を体験しました。

研修の中で、「お客様や楽員一人一人に寄り添うこと」の大切さを学び、来場されるお客様に合わせた様々な配慮、気遣いがあることを知りました。名フィルの事業には様々な催しがありますが、例えば、「子どもの対象にした演奏会」「福祉コンサート」など、開かれる演奏会によって、その対応は様々でした。そこにはいつも、お客様の立場で、お客様の気持ちに寄り添うスタッフの姿がありました。このようなきめ細かな対応は、学校現場においても必要な配慮であり、共通する大切な思いであることも改めて感じました。

「名古屋市教員長期社会体験研修」が終わり、2学期が始まった9月。校長先生から、「ナゴヤ学びのコンパス」が策定されたことが教職員に伝えられました（詳しくは、ナゴヤ学びのコンパス QR 参照）。子どもたちが自分らしく楽しく学ぶことができるように、教師は伴走者として一人一人に寄り添うことが求められます。これは、研修で学んだことを生かして、現場に還元できると思い、音楽科の歌唱教材に取り



ナゴヤ学びのコンパスQR

入れてみることにしました。授業は、子どもたち主体で進められるようにしました。まずは、一斉指導の中で行っていた歌唱指導とは進め方、意識を変えてみようと思いました。しかし、子どもたちの学びに寄り添えるように授業を進めようとするものの、「子どもたちは本当に理解しているのか」「その練習の仕方本当に上達するのか」と、私がとても不安になってしまいました。そして、ついには、「本当にリズムは合っているの?」「強弱はもっと付けた方がよいのでは?」と、口を出し過ぎてしまいました。これではとても、一人一人に寄り添い、子どもたちを中心にした指導とは言えません。

これではいけないと思い、まずは子どもたちに任せて、一人一人の様子を見ながら効果的な助言をするようにしました。また、子どもたちを信用して見守るようにしました。すると、自分たちで今まで学習したことをもとにアドバイスをし合ったり、練習の仕方を工夫したりして、主体的に進めていました。実際に歌も見違えるほど上手になりました。「こうやって歌いたい」「このめあてを達成させたい」と自発的に行動することは、子どもたちが成長することにつながるのだと考えさせられました。

令和5年度は、6年生の担任をしていました。子どもたちは、音楽の授業の中で互いに高め合い、認め合ってきました。卒業式には、素晴らしい歌声を体育館に響かせて巣立っていきました。自分の思いを届けようとする姿は、忘れられないものとなりました。

今後も、子どもたち一人一人に寄り添って、私も共に成長していくことができるように、日々、研鑽を積んでいきたいと思えます。

♪令和6年度 研修会のご案内♪

【日時】 令和6年8月11日(日) 10時より

【場所】 名古屋音楽大学 ホールDO

【研修会】 「ピアノとともに」 <仮題>

【講師】 名古屋音楽大学新学長 清水 皇樹 先生(ピアニスト)

